

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大阪府立枚方高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒572 - 0027
大阪府枚方市大垣内町3-16-1

E-mail : hirakata-hs@sbox.pref.osaka.lg.jp
 Website : http://www.osaka-c.ed.jp/hirakata/

児童生徒数：男子 423 名 女子 568 名 合計 991 名
 児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

異文化理解の取り組み

大阪府立枚方高等学校は、普通科だけではなく国際教養科を有している。国際教養科は広く国際社会に目を向け、異文化の理解を促進するのが目的である。それはユネスコスクールの目的の一つと一致するものであり、したがって本校はユネスコスクール加盟後、異文化理解の分野を中心に活動してきた。

国際教養科には第二外国語という教科があり、その中には選択科目で韓国・朝鮮語がある。また枚方高校が所在する枚方市は、韓国全羅南道の霊岩郡と姉妹都市である。姉妹都市になった由来は、古事記、日本書紀等にあらわれる日本に漢字を伝えたと言われる「王仁博士」の墓とされる史跡が枚方市にあり、また彼の出生地が韓国霊岩郡とされているからである。また隣接する大阪市の生野区にはコリアンタウンがあり、第二学年の時に人権学習の一環としてこの地のフィールドワークを行い、朝鮮半島の文化に触れることが恒例になっている。このように枚方高校は韓国になじみのある環境にあり、国際理解の取り組みの一環として韓国に目を向けるのは自然なことであった。

①日本史の授業における「王仁博士」への言及

枚方高校が所在する大阪府枚方市は韓国全羅南道霊岩郡と姉妹都市の関係にあるが、それは日本に漢字を伝えたと言われる朝鮮古代の百済国の王仁博士がこの霊岩郡で生まれたと言われ、また伝王仁墓が枚方市にあることに由来する。「伝王仁博士墓」は枚方高校から自転車で30分ほどの、枚方市北部にある。そこで2年時の日本史の授業の古代朝鮮と日本の交流の単元で王仁をとりあげ、彼と枚方の関係を紹介し、古代韓国が私たちの身近に存在することにふれた。王仁の実在性については疑問もあり、これらをすべて歴史的事実であるとは断定できない。しかし両国の人々の間で王仁博士に関する様々な伝承の存在は大きな意味を占めており、彼に対する理解を深めることは、韓国に対する理解を深化に大いに寄与すると考えたのである。

別添資料

- 1 日本史授業計画
- 2 写真 a 伝王仁博士墓

②友好都市霊岩郡紹介

つづいて、文化祭で霊岩郡全羅南道、特に特産物の紹介と販売を行った。異文化理解のためにはまずその文化に興味を持つことから始まると考えられるし、文化の興味を持ちやすい側面は衣・食・住の分野であろう。文化祭では霊岩郡の地理、名所を紹介するとともに、韓国全羅南道大阪通商事務所に紹介いただいて、霊岩郡の特産品を取り寄せ、文化祭で販売した。この企画は生徒会執行部の発案で、急遽決まったものであるが、準備に十分な時間が取れなかったため、宣伝不足で、十分な成果を得たとは言えない。ただ、来場してくれた方には講評であったように思う。

別添資料

- 3 写真 b 文化祭の様子
- 4 霊岩郡 特産物一覧

③ 韓国伝統菓子の製造

ESD アシストプログラムの助成金を頂き、韓国伝統餅の製造を計画し実行した。生徒会執行部生徒を中心に約10名が参加した。助成金を申し込んだときの文書は下記の通り。

「異文化理解の一環として、韓国の伝統餅を作ってみる。ムシゲトックといわれるカラフルな蒸餅である。これは日本のもち米から作る餅とは違って、うるち米の粉も混ぜて作るもので、触感が蒸しパンのようなふわふわした感じになる。白、赤、黄色、緑、茶色が層になる美しいもので、朝鮮王朝の時代から、祝い事の席などに用いられたそうである。」

当日は生徒会執行部生徒を中心に10名ほどが参加した。実際にやってみて水の加減が大変難しかった。我々が作ったものは、米粉に対して餅粉の量がやや多すぎたようで、ブレンドした粉をふるいにかけるのが大変であった。生徒達もこれには一番苦労していたようである。粉をふるいにかけるつもりでも、ふるいの目のところに粘着してしまっていて、なかなか細かい粉にはならなかった。悪戦苦闘しながらようやく色を付けるところまで終わり、蒸し器（強火）で30分ほど蒸す。勢いよく蒸気が上がると同時に、おいしそうな匂いが漂い、大いに期待された。10分蒸すという10分が待ちきれずに、5分くらいで切り分けて食べてみたが、結果はおいしくなかった。失敗の原因は餅の粉が多すぎたこと、で切り分けることが難しかった。参考文献では、これは餅というよりは蒸しパンのような食感になる、と書いてあったが、我々のはどう考えても餅であった。もう一つはかぼちゃのパウダーを混ぜすぎて、黄色の層がうまく固まらず、触感も悪く、おいしくなかった。大変残念であった。

生徒の感想

「お餅という同じ食べ物なのに、日本のものと韓国のものでは、共通点とちょっと違うところがあって、とても面白かったです。でも日本のお餅はあの丸い白いものばかりなのに、韓国では作り方も色も形もいろいろとバラエティに富んでいて、伝統が生活の中に今でもたくさん残っているのだな、と思いました。またきれいな色を出すのに、韓国の伝統餅は天然の素材を使うということにも感心しました。自然をととても大切に作る国なのかな、と思います」

「上手にできなくてとても悔しい。こういう粉を使った調理は水加減とか配分の割合とか、丁寧にしないとダメなのだろうな、と思う。でも自然の材料だけで、こんなにきれいなお菓子を作るとは、昔の韓国の人はずごいな、と思った。韓国の伝統衣装なんか、すごくきれいだけれど、そういう美的なセンスのようなものが韓国の人にはあるんだと思った。もう一回やりたい」

別添資料 写真 c d

④ ハロウィーンの際のパンプキンカービング

日本でもポピュラーになってきたハロウィーンの行事であるが、本校では数年前から ESS クラブの活動の一環として、その起源を学習し、かぼちゃちょうちんを作るという試みをした。クラブ生徒が調べた内容を発表し、その後参加者がかぼちゃちょうちん作りをした。

別添資料 写真 e f

資料 ハロウィーンの世界

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（生徒か執行部の活動として実施）